

## 第 13 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要

### I. 開催日時および場所

日時：2016 年（平成 28 年）12 月 20 日（火）10:00～12:00

場所：富岡町教育委員会 郡山事務所 大会議室（郡山市桑野 2-1-1）

### II. 委員

別紙名簿の通り

### III. 資料

- 議事次第・席次表
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（H28.12.20 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 12 回）議事概要
- 資料 3 平成 28 年度各取組実施状況・別紙「ふるさと創造学」取材記事
- 資料 4 平成 29 年度ビジョン実施計画・行事予定（案）
- 資料 5 福島県双葉郡「G Suite for Education」活用事例紹介
- 資料 6 広報誌「ふたばの教育」vol.6\_2016 年秋号
- 資料 7 ふたば未来学園整備事業実施設計概要
- 資料 8 仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業概要
- 資料 9 双葉郡 8 町村で取り組む教育復興活動の概要
- 資料 10 平成 29 年度ふたば未来学園高校入学生教育課程表

### IV. 議事内容

#### 1. 開会

##### 1) 開会挨拶（武内敏英 大熊町教育委員会教育長）

- 今年度予定された諸事業も滞りなく執行でき、多大な成果を収めることができた。例えば 12 月 3 日に開催した「第 3 回ふるさと創造学サミット」は、参加者も増え、子供たちの成長の姿がはっきりと見られた。「ふるさと創造学」に取り組む教員の意識も高まっている
- 福島県外に避難した子供に対するいじめが報道された。子供たちや保護者は避難先の自治体の学校や教育委員会には相談しづらいかもしれないので、この点も考慮した国や県の対応策が必要。もちろん双葉郡 8 町村の教育委員会も関係市町村と連携し支援していきたい
- 双葉郡内では小中学校 6 校が依然臨時休校のまま。児童生徒の減少や入学生が見込めない学校もある。「教育の復興なくして双葉郡の復興なし」を肝に銘じ、今後とも中長期的な将来を見据えた教育の魅力化に、双葉郡一丸となって取り組んでいかなければならない

##### 2) 自己紹介

#### 2. 前回議事概要確認【資料 2】

- (全会) 承認

### 3. 議事

#### 1) 今年度の各取組実施状況報告【資料3】

- 双葉郡地区学校支援地域本部について、双葉郡地域学校協働本部に名称を変更した。今後も外部講師を中心に双葉郡全体が子供たちと連携できる形をとっていききたい
- 「ふるさと創造学サミット」「絆づくり交流会」「中高生交流会」について、いずれも参加者が増えた。教職員による実行委員会で現場主体の企画運営が進んだ。今後も子供たちの絆づくり、学びあいの場や社会体験の場を協働で作るという共通理解をさらに深めていきたい
- 教員研修について、「ふるさと創造学」の取組発展に向け、授業の中での指導方法を研修している。1月17日に「子供たちの成長を見取る」ための研修を予定【資料9】  
広報誌について、子供たちの表情、思い、それに寄り添う教職員の姿を伝えるため、各校から写真やコメントを集めて制作。ICT活用について、「G Suite for Education」ハングアウトを活用した生徒同士の交流も行われたことは、大きな成果【資料5】【資料6】

#### (委員質問)

- サミットの振り返りはしているのか → 1月17日に研修を予定。そこで子供たち、先生方の反省、先生方が子供たちをどう見取ったかまで深めたい
- サミットに参加した子供の数は全体のどれくらいなのか → 双葉郡全体の小中学生の約半数
- 当日来場者はどういう方か → 教育委員会、学校関係者、保護者など。また、学校からお世話になった地域の方々への招待状送付を呼び掛けた
- 今後の展開はどのように考えているか → 基本は子供たちの学びあいの場、社会との接点
- これからは子供たちの提案を受けたときに大人がどう実現させていくかも課題だと感じる
- 双葉郡の子供たちのことを福島県の人たちに知ってもらうのは非常に大事なことだ
- 震災・避難生活を経験した子供たちが社会に対する信頼を回復しながら担い手として育っていくというプロセスをどうやって作り出すのか、またどうやって地域の課題を学びに展開させていくのかは、双葉郡教育復興のチャレンジではないか

#### (情報提供)

- 復興庁「被災者支援総合交付金」29年度の1つとして「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」を計上した。委託ではなく交付金であり、事前申請し通常予算が年度内に成立すれば4月1日から執行が可能。また「福島県の子供たちを対象とする自然体験・交流活動支援事業」も引き続き実施できるよう調整している【資料8】
- また、被災児童の学習支援のための教職員の加配、緊急スクールカウンセラー活用事業、公立学校施設整備事業、学校施設環境改善事業、就学支援事業等、引き続き所要の予算を確保。この福島県双葉郡教育復興推進事業についても引き続き予算の確保ができる見込み
- 福島県外に避難した子供に対するいじめについて、文科省としても直接指導を行ったところだが、引き続き関係機関と協力し対応していく

#### 2) 次年度の実施計画について【資料4】

- ふるさと創造学を中心に本年度の取組を発展させていくために実行委員会体制を継続

- 県教委の双葉地区教育構想との連携協力も図っていく。30年度以降の事務局体制についても、教育長会、関係者、関係機関と検討を進める

3) 福島県立ふたば未来学園について

(1) ふたば未来学園高校の活動報告【資料 10】

- 高校としての「ふるさと創造学」の取組「未来創造探究」の学びが発展
- 創部1年目ながら演劇部が地区最優秀賞を受賞して県大会へ進出した

(2) 校舎設計および併設中学校検討協議会の進捗状況について【資料 7】

- 平成31年度4月開校の新校舎はエデュケーショナルコンコースを核とした設計
- 「ふたば未来学園中高一貫教育検討協議会」を設置し、併設中学校の教育方針に基づいた教育内容等について協議している。その中で新しい中学校をつくるにあたって、双葉郡の子供たちの声を聞くことについて提案があった。平成29年度内に実施する予定で、詳細は事務局にも協力いただきながら今後検討していきたい

4) その他

- 次年度協議会は5月と12月に開催を予定

4 閉会

以上